

所属・資格 総合文化研究室・准教授

申請者氏名 金 愛蘭

研究課題		近現代日本語における叙述基本語彙の形成史の研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	基本語彙の研究は、かつて国立国語研究所の一連の語彙調査によってその選定法が検討され、また寿岳章子によって骨組み語・テーマ語・叙述語という分類も提案されたが、その後ほとんど進展していない。本研究は、文章語（書きことば）の基本語彙の中核に「叙述基本語彙」と呼ぶべき語群が存在すると見定め、それらが近現代の文章語の成立・変化に伴ってどのように形成され、今日の姿に至っているかを明らかにする。そのために、今年度は20世紀後半の文章を収めた大規模な通時的新聞コーパスを構築（増補）し、それに語彙調査を施して、叙述基本語彙の形成過程を、語彙史・語史の両面から解明するための基礎的研究を行う。
	研究の結果	今年度は、上記の研究目的のもと、『20世紀後半の通時的新聞コーパス』の増補を行った。具体的には、同コーパス※の、元々新聞のページ数が少ないためにデータ量の小さい1950年について、約170万字のデータを追加して約220万字とし、他の年のデータ量に近づけることで統計的分析の精度を向上させた。その結果、全体で約2,200万字という他に類を見ない大規模なコーパスとなった。 ※ 1950年から2010年までの『毎日新聞』から、ほぼ10年おきに、毎月3日分（5日・15日・25日）、各年36日分の朝刊（全国版）全紙面の記事（見出し・本文）を、1950～80年は『縮刷版』からテキスト形式で入力し、1991～2010年については『CD-毎日新聞データ集』から（毎日新聞社の許諾を得て）抽出して、作成したもの
	研究の考察・反省	今回の増補は古い時期の新聞であったことから、文字入力業者への外注データの準備と、その後納品されたデータのチェック作業に多くの時間を必要とされた。そのため、叙述基本語彙の形成過程を語彙史・語史の両面から解明するための研究は、具体的な分析までには至らず、ケーススタディの候補検討に留まることとなった。次年度以降、増補作業の終了したコーパスを用いて具体的に分析していく予定である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>金 愛蘭 (2019) 「社会変動の中の日本語研究—学の樹立と展開—」『日本語学会 2019年度秋季大会シンポジウム』日本語学会, 2019年10月27日(日), 東北大学, 指定討論者</p> <p>金 愛蘭 (2020), 第4章および付録を担当, 小椋秀樹編『コーパスで学ぶ日本語学 日本語の語彙・表記』朝倉書店, 印刷中</p> <p>金 愛蘭 (2020), 「計量言語学」など11項目を担当, 森山卓郎・渋谷勝己編『明解日本語学辞典』三省堂, 印刷中</p> <p>金 愛蘭 (2020) 「外来語の叙述語化—乱れか変化か」, 金澤裕之・川端元子・森篤嗣編『日本語の乱れか変化か—逸脱表現や新語の発生と許容—』ひつじ書房, 印刷中</p>	